

新潟国際交流ふれあい基金平成22年度(2010年度)助成事業

2010年度

ミャンマーにおける縫製教育支援 サウンダー会活動報告

1、はじめに

1)この事業の目的

国際交流事業として「ミャンマーにて縫製教育を立ち上げる事で

- 1)新潟県民の知恵と経験を生かした国際交流を実施する
- 2)縫製教育を立ち上げる為にその指導者を養成する
- 3)若い人へ職業選択の機会をひろく提供する
- 4)地域振興を支援する。

2)具体的行動計画

- 1)縫製教育開始するために指導者養成講座を開催する
- 2)その為のミシン等の設備を現地の使いやすい形で寄贈する。
- 3)指導者教育を支援する為に新潟県民の経験を生かした知識を提供することで国際交流する
- 4)指導者を新潟、日本へ招聘し縫製教育を共有して交流事業を行う
- 5)現地ミャンマーを訪問して、縫製教育関連を視察しながら交流事業を行う
- 6)出来る人が、出来る方法で、出来る事を実行して参加する行動型交流事業が目標

実施報告

A, 2010年1月13日-16日、現地マンダレーのサウンダー織物学校を訪問して縫製教育立ち上げとその支援について打ち合わせ実施

1)現地の要望が大きくなっていました。

当初の予定は、サウンダー織物学校本校にて縫製教室設立でしたが現地希望が大きくなっていて主力分校2校を加えて、計3校にて設立したいとの希望です。(*3)

2)予算と支援体制を考慮して、相互に可能な方法を下記のように考案しました。

- イ)最初の教員養成を2名から10名に増やします。(*1)
- ロ)方法は5月1か月間、10名の先生に集中講義を計画しました。(*2)
- ハ)その集中講義の為の特別講師を現地MYCAの協力を得て確保しました。(*4)

*1) 30代3名、20代7名、計10名の教員養成候補を3校より選抜していました。

実はこのメンバーは考えられる最良の集団です。分校校長含み若手中心に選んでいます。せつかく現地側が意欲的に動いていますので、それを実現可能な案にまとめました。



第1回打ち合わせ(1/13)

上左より斎藤、アシスタント、主任教師
下左よりAMC社長、前CID局長、校長
サウンダー学校内ギフト館にて

左写真は
YMCAとの合同会議
(1/15)

上段左端、日本人責任者
下段右より2人目が
主任教官予定者(*4)

サウンダー織物学校正面
にて撮影
後ろの建物に縫製講座設置
予定

- * 2) 5月は授業がなく10名の先生が合宿し集中講義可能との提案がありました。その特別講師として地元YMCAから日本の縫製を学んだ主任教師に出張講義の了解をいただきました。1日4時間×20日の時間数を計画、最初の15日間は縫製実技を中心にした基礎内容を上記講師に依頼最後の5日に日本から講師を募って、縫製技術の上級やデザインについて講義を検討中です。
- * 3) この集中講義の内容をまとめて、指導テキスト作りも同時並行する計画です。テキスト制作は重要でこれにより3校のスタートの準備が整います。このテキスト作りの担当者も今回選任しました。

3) 縫製教室(兼今回の集中講義) 予定場所

本校正面の1914年開校時のコロニアム風建物で2004年より資料館として使用していた瀟洒な設備です。36㎡の教室を2つ、講義室と実習室が確保してありました。現地側の力の入れようを感じます。



4)、日本側の準備

上記のように現地側が予想以上に今回の支援を心待ちにして、かつ意欲的に対応しています。正直、ミャンマーでは考えられない積極的な行動です。私の予想をはるかに超えていました。学校上層部で、開発途上国に合った産業としての縫製産業への人材育成を視野に入れていると感じました。私達もしっかり支援すればこのプログラムは成功すると感じました。

B、そこで日本側の体制を強化するために会員の追加募集を開始しました。下記が募集要項です。

海外支援ボランティア会員募集

サウンダー会・ミャンマークラフト支援会

理事長 斎藤秀一

市民同士、生の国際交流

マンダレー市サウンダー織物学校の縫製教育プログラム支援
新潟・国際交流ふれあい基金助成事業

活動趣旨、物を贈るより人を生かす支援

- イ) 海外支援として単に物(ミシン)を贈るだけではなくて、指導者を養成して、縫製学校を立ち上げて、縫製技術を広げます。技術が身に付けば、現地での自立の道が広がります。
- ロ) 基本からしっかりと設計した活動は容易ではありません。この活動を一緒に行う事で、現地を知り、真の国際交流を目指します。
- ハ) 日本、ミャンマー2つの文化がぶつかって新しい事に挑戦しています。そこから新しい芽が生まれつつあります。

参考 ミャンマー中部の古都・マンダレー市での交流活動です。同国は国際社会から軍事政権などで経済制裁を受けています。しかし、国民は敬虔な仏教徒が多く大変親日的です。その国民は国際社会との交流も少なく、成長できる機会に恵まれていません。私達は政治に関与せず直接市民同士が交流する事で共に成長出来る道を考え模索しています。



- 2) 相互交流によって養成講座継続します。
日本からデザイン・縫製技術などの情報を伝えます
相互に訪問し合っ、相互理解を深めて、適切な交流を継続します。
- 3) 一般募集して学校を開始して縫製教育を広げます。
- 4) 現地で新しい素材開発とその利用を双方の協力で実施します。

会員募集、**ご貴方も一歩踏み出してみませんか。**

貴方の出来る範囲で、参加しませんか？ 新潟県民が中心の海外支援ボランティア活動です。
「百聞は一見に如かず」です、貴方の視点で海外(ミャンマー)を見る事が出来ます。

募集要項、**ご一緒にやりましょう**

- 1、趣旨に賛同いただける方であれば、貴方の出来る方法で参加出来ます。
 - 1) 1年間の体験入会(年会費¥2000) 入会して様子を見てみる。
 - 2) デザイン、縫製技術、教育プログラムなど専門支援
 - 3) 一般会員・家族会員・学生会員 登録して出来る範囲で一緒に活動します。
- 4) 資金支援 個人・法人様よりの寄付を受付けています。

2、連絡先

齋藤秀一(NGOミャンマークラフト支援会事務長)(サウンダー一会理事長)
〒950-0947 新潟市中央区女池北1-5-11
tel 025-284-6461 URL <http://www.asia-modern.com>

C、3月の現地訪問と打ち合わせの報告

1、 ミシンの寄贈準備

現地にて下記のミシンと備品の選択および購入をサウンダー織物学校校長へ依頼してきました。
なお、購入資金はヤンゴンのAMC社にUSドルを預けそこから現地通貨を送金する事にしました。
(サウンダー織物学校ではUSドルを保管できない為)

日本の中古電動ミシンを、足踏みも可能に改造してテーブル付き 10台
ロックミシン 1台
ジグザク電動ミシン(足踏み可能に改造済み) 1台
200V→100Vへの変圧器 12台
ハサミ、定規、針などの小物セット 12セット



右写真が現地で改造され販売されている、
停電対応電動ミシンです。
ミシン台付きなので結構使いやすいです。

2、 教科書作成準備

5月の集中講義時に、その講義内容を参考に加筆して縫製講座の教科書を作成します。
この教科書が、その後サウンダー縫製講座のテキストの基礎になってきます。
日本からの提供資料含め、新しい講義内容が自由にかつ容易に加筆できるように、原稿をスキャンして記録する事にしました。
(ミャンマー語のフォントでパソコンに記録も出来ませんが意外と時間を要します。今回は簡易法を考えました、その為のスキャン付きプリンター(テキスト制作用) 1台も現地で購入し、寄贈しました。)

教科書作成は講師のセンディアさんとサウンダー学校のナンダさんの2名で担当します。
当然大きな視野からの講義内容については私達もアドバイスしますが、現地側だけで作ることは重要な意味を持っています。最初が完全な教科書でなくても、自分達で修正、加筆して完成度を上げられる事です。
既に日本の支援に頼らないで自立できる体制を、基本部分に取り入れて事業を開始します。

3、 マンダレーYMCAとの協力体制

YMCAはマンダレーにて10年以上の活動歴があり、日本語学校、縫物教室を一般市民向けに開いて居られます。当方は将来縫製の専門家を育成を視野に置いてのスタートです。よってYMCAの縫製教室とは競合しないで住み分けながら縫製技術の普及について協力体制を築いていく事で相互確認しています。先方より専門家を特別講師として派遣いただきかつ教科書作りでも協力頂けることは大いに感謝します。



右写真

下段の5名はサウンダー学校等関係者
中段3名がYMCA関係者です。

4、 ミャンマー政府への縫製講座開設申請

サウンダー織物学校はミャンマー政府中小企業庁管轄の国立学校ですので新規事業は許可が必要です。前回1月訪問時に大筋の計画について申請してきました。産業大臣の許可も受けたとの知らせは受けましたが今回滞在中にはまだ正式文書は届きませんでした。実はこのような海外支援案件は、大臣許可が出るまで日数を要しますが、中小企業庁Director、校長、当方のカウンターパート3者が協力して申請していますので、かなりスムーズに進んでいます。これはミャンマー側で本計画については、前向きにかつ好意的にとらえている為です。本計画の今後の計画、1)サウンダー学校関係者の日本招聘(招待) 2)当方のミャンマー訪問についても大筋で説明してありますのでスムーズに進行できます。

5、 日本側の専門家派遣対応

5月1ヶ月、現地で教員養成のための集中教育を実施します。そこへ日本から専門家を派遣予定で準備していましたが、現在下記の状況です。

1)金沢美大 計画中ですがまだ未決定です。

2)新潟青陵大学短大部 本日詳細打ち合わせしてきました。

2名の先生が現地訪問し交流事業に前向きにとらえて頂きましたが、日本の授業の関係上5月第4週が難しい。12月末では？との提案も頂きました。

交流時期については現地—日本双方の事情、天候等擦り合わせて、良い日程を早急に提案します。

D、2010春 第4回ミャンマー展報告(ミャンマークラフト支援会)

4月24日～5月18日の25日間におよぶロング開催しました。

- 目的
- 1、NGO活動の紹介(ミャンマーの医療を支援する会様共催)
 - 2、ミャンマーの実情を市民の視線で紹介
 - 3、工芸展の展示販売会で商品紹介と活動資金集め

結果

- * 25日間の入場者 約3300名
 - * 会場での募金 8281円
 - * 会場での新規加入会員 5名
 - * ミャンマー関連の新規人脈獲得
- その他会場にて総会や理事会を開催し活動の打ち合わせなどにも活用しました。会の活動としても成功でした。



1F 活動紹介パネル展



2F展示会場



2F展示会場

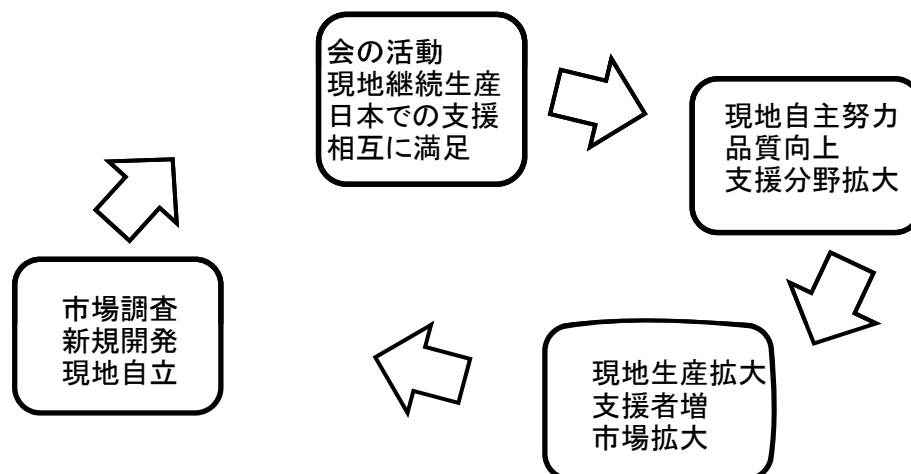
総括

- 1、北方文化博物館様よりの後援を含め 約16万円をサウンダー会会計へ寄贈
- 2、会場費など必要経費差し引いた約120万円がミャンマーでの活動費へ廻ります
- 3、今年は名物「大藤」の開花が遅れ、結果として連休から約20日間多くの人出を得ました。
一方、新聞記事などでの紹介、会員のご紹介により展示会目的の入場者も沢山あり大勢の入場者で盛会となりました。
- 4、ミャンマーから有機栽培綿の栽培を委託している田中利治氏やミャンマーの留学生を支援している長谷川了氏などミャンマー支援関係者も訪問され、親睦し今後の交流の拡大につながりました。

主な来場関係者

田中利治様	ミャンマー政府MCDC農業アドバイザー(ミャンマー在住)
長谷川 了様	ミャンマー交流10数年、現在ミャンマーの留学生を支援
長岡公益公社	イベント参加を依頼受けました。次回検討約しました。
青山清道様	NGOにいがたネットワーク理事 元新潟大学教授
宮西邦夫様	新潟県立大学教授
内藤 眞様	新潟大学医学部教授 ミャンマーの医療を支援する会代表
戸張公清様	彫刻家
大出恭子様	NGOにいがたネットワーク事務局

- 5、*ミャンマー工芸展に対する来場者の印象は「出来の良さ」に驚愕して「価格の安さ」に感激です。会期中100個以上売れたのは「ミャンマー茶」「木のカップ」「長尺靴べら」「手削箸」「シルクショール」です。50個以上は「孫の手」、「もみのき」、「ニギリ星」の木の癒しグッズ3種と「コットンショール」「木の皿」「木のスプーン類」「椿の皿」です。
*リーマンショック以前のミャンマー展では入場者の7-8割は購入されました。今回は約3割の購入率です。不況が会場からも感じられます。しかし、製品を常時改良してかつ新規開発品して、そして扱い数量が増えるに従い、経費が下がりますので、製品価格も2年間で約30%ダウン出来ました。これらの結果売上金額は毎年30-50%UPしています。
*この結果、活動資金は増え、ミャンマーでの支援活動はより充実します。
現地で継続生産が出来れば、仕事も慣れ、自動的に品質は向上します。継続が一番の処方箋です又、展示会はマーケット調査に最適な環境です。これらの情報を現地にフィードバックして、品質改良や新製品開発に生かしています。良いサイクルで廻りはじめました。



- 6、来場者の中には「値切り」や「展示品の散らかし」など日本人の質に疑問を呈する場面もあり、ミャンマーでの人材育成の前に日本人の教育再生の必要性を感じる時もありますが、多くの方より活動に募金いただいたり、励ましの言葉など沢山いただき、励みになります。今後、会員の方々が積極的にバザーにも参加出来る環境を整えて、参加型支援活動を広げて行きたいと考えています。
意欲のある方が、出来る範囲で、出来る事を、一步踏み出す事で自己実現を目指す活動です。
- 7、その他のミャンマー支援活動で、Good Newsが入っています。
備考1) 経産省・JETRO運営で成田空港などで運営している開発途上国産品500アイテムを販売する一村一品マーケットの2010年度取り扱い要項が、5月初めに決定しました。
昨年は9アイテム参加して全体の約7-8%のシェア率でした。今年は人気の3アイテムが新規取り扱いで追加決定しシェア率12%を目標にします。
備考2) 高島屋横浜店で28年継続している民間としては権威のあるアジアフェアに出展する事が決定しました。(実施時期は7月21日-26日)
備考3) JETROによる開発支援で、応募50件中1次審査を通過した16件に入りました。
5月13日に2次審査のプレゼンテーションを行ってきました。
アジア関連の採用率は3件ですが、コットン開発案件で申請しています。期待大です。

第1回サウンダー会総会報告

日時 2010年5月15日
場所 北方文化博物館屋根裏ギャラリー
議題 1、縫製学校をサウンダー織物学校内へ創設事業途中経過報告、計画承認
2、日本への招聘 教官2名と日本で交流事業計画承認
3、現地訪問で交流計画、現地社会情勢注視して計画立案
4、縫製学校その後の計画承認
5、理事、会員紹介
備考 資金計画について説明
参加者 15名(内委任状7名含む)

第3回サウンダー会理事会報告

日時 2010年5月9日
場所 北方文化博物館屋根裏ギャラリー
議題 総会議題打ち合わせ

サウンダー会、縫製教育プログラム支援

- 1) 宇佐美准教授より、初期教育用のデザインと型紙さらに先生自らの手縫いサンプルとそれに関する数点のデザインのご提供を受けました。
 - 2) 石原会員より改良デザインのご提供を受けました。
 - 3) 今井准教授より縫製サンプルのご提供を受けました。
 - 4) 宇佐美准教授より先生の講義用プログラムより初期教育に適した内容のご提供を受けました。
 - 5) 石原会員より紬生地サンプルのご提供を受けました。
- これらの資料は来週斎藤が現地マンダレーに運びます。



教育資料の検討会風景

E、現地5月訪問して(2010年5月24日～6月6日)

指導者養成講座開催視察報告
同講座への支援に対するミャンマー政府からの感謝状
同講座受講認証式の報告
同講座に対する現地バックアップ体制
に対する報告書を下記にまとめます。

5月24日～6月6日までミャンマーへ入って来ました。今年5月の現地は最高気温ヤンゴンで37度、マンダレーで45度と30数年ぶりの記録的猛暑でした。病院も満員の様子で知人も入院していました。幸い下旬には雨が降り気温が下がりましたが、しかしそれでもマンダレーで気温35℃、ヤンゴンでの気温33度は結構暑かったです。さらに、ヤンゴンは湿度100%ですので日本の梅雨と夏を同時に体験してきました。

そんな中で縫製教育プログラムが順調に立ち上がって、予想以上の成果が出来てきました。今後の交流の基礎が現地ですっかりと出来上がった事を確認してきました。

別プログラムの有機栽培コットン製品開発支援事業も順調に進んでいます。今回は有機栽培を推進している現地企業と協力していく事でも合意し、さっそく新しい土地で品種の比較試験を共同試験する事にしました。残念なニュースも入りました。JETROの開発支援案件、最終審査で落ちました。今年は想定以上の成果を目指して、より濃度の濃い計画にして来年も申請予定です。

今回の訪問中にヤンゴンで、手工芸産業育成のセミナーがCID(ミャンマー中小企業庁)主催、UNIDO(国連、産業育成機構)、JODC(日本海外開発支援機構)の協力で行われ、招待参加者150名ほどの中に日本の民間からただ一人参加してきました。会合後CID幹部と夕食をして問題点など聞いてきました。

1、 縫製教育支援プログラム 第1ステップ 教員(指導者)養成



会報5でお知らせしました、指導者養成講座を計画を現地事情に合せ、修正しながら実施して予想以上の成果を得て終了しました。以下報告

- 1 昨年現地と協議し計画を立てた段階の第1ステップは、本校から2名の指導者を選別し、その指導教育過程で日本側から指導資料を提供する計画でした。
- 2 今年3月現地と実行計画を煮詰めた段階で、本校と分校2校から計10名を選別したいと希望受け変更しました。その為の環境として
 - * 現地で指導者教育ができるマスター講師と面談して日本と交流できるレベルまでの基礎教育を実施する。
 - * テキストを現地で作りながら教育する。
 - * 現地側も学校休みを利用して4週間の合宿を組む事などを決めて準備に入りました。
- 3 実施段階で、他の分校からも希望で、計6校から10名参加に変わっていました。
 - * このくらいの変更は想定内、柔軟に対応
- 4 7:30~11:30までセンティア先生の講義と実習 午後5時まで自習して、充実した4週間でした。9時~4時の勤務が当り前の公務員です。それが自分達で残って自習していました。先生と生徒の間の信頼関係も強くなります。
- 5 40℃を越す気候の中で、積極的な行動が次々と成果を生んで、それが次へと発展する良いサイクルが出来てきています。



寄贈した12台のミシン



センティア講師の人徳にも支えられ養成講座は大成功

2、 縫製教育支援プログラム 第2ステップ 日本との交流でレベルアップ
2つの文化の融合で従来とは次元の異なる交流の具体化も見えてきました。



宇佐美先生ご提供のデザイン、見本を使って
講義を1日延長して、さっそく実習に入りました。



翌日にはほとんどの生徒が
試作を終え、一人は2着目も
制作終えて、それを得意の
インデコで薄青に染めました。
写真の2着目を持ち帰りました。



数日したら
Hnin Yi Ayeさんが
草木染した別な生地で
裾の改良型を作りました。
質感も良かったです。

宇佐美先生の課題作が大評判

現地では①日本の流行デザインで大歓迎。センティア先生がさっそく講義資料をつくれ、
講義日程を1日延長して指導されました。

②縫製し易い袖デザインを提供しましたが、現地の縫製レベルでは高度なデザインとの事。
地元の従来の縫製方法とは違って、大変着易い機能的縫製方法と話題でした。
それを縫えた事が彼女たちの満足、自信を更に深め2着目の制作に入る人が沢山でした。

③2着目の制作では写真のように自分で出来る工夫を加えました。

織、草木染の先生が縫製を覚えると可能性が広がる事を実感出来ました。

④課題作品用に選んだ生地は薄手の手織コットン生地でした。A)現地の猛暑に合った機能的デザイン、
B)日本発デザインの要素も含め、手放せない服と言って喜んで着ていました。



実習作品

講座の課題作は6点、1、ブラウスからコートまで
順次高度な縫製に移っています。
最後のコートは裏地はありませんでしたが
縫製処理もしっかりしていました。
今井先生からのサンプル同様の処理をしていました。

縫製覚えて1ヶ月です。品質は？ですが
作業を継続する事でレベルは上がってきます。

図書コーナーの設立

次の課題作2点をファッション誌で検討している関係者。
資料はサウンダー本校に縫製関係の資料コーナーを
作り、そこで保管して、必要な資料はコピーして
分校へ連絡する事になりました。

今後、文献も出来るだけ寄贈予定です。





創作課題と教育

福島女子短大の吉田先生の創作。絹ショールを加工したドレスを検討する関係者です。生徒一人にはこのデザインを参考にして生地を創作してドレスに挑戦する課題を出しました。

他の生徒2名には、宇佐美先生課題作についてそれに合った生地を創作する課題を出しました。

能力の高い人には、それなりの工夫、考案する機会を提供しながら、本活動の新たな課題を先行試行しています。



テキストについて

持参したJIS記号一覧表など、必要な資料をHitoセンターの日本語教師、金治、渡辺先生センティア講師、通訳のトーマさんの4名に翻訳依頼して、テキストに組み入れました。

テキストは、授業の基本です。本講座を実施しながら、センティア講師とアシスタントのナンダさんの2名で制作しました。これをCID(中小企業庁)へ提出して、今後開設するサウンダー縫製講座の正式テキストとする事になりました。著者はセンティア講師の名前を入れました。当然、今後日本からの提供資料も必要に応じて追加していきます。



材料開発と関係者の連携拡大

石原会員から提供頂いた、手織風生地を参考に養蚕工場マネージャーへ、手紡絹糸(紬)の改良を依頼しました。木綿手紡ぎ糸の改良についても、地元関係者へ相談・依頼しました。

直ぐには出来ませんが上記の改良糸が出来れば、ミャンマーで最優秀の織物指導者集団が待ってます。生地開発はお手の物です。そして衣類へ糸一生地一衣類が直線で結ばれました。ひとつの工夫が多方面に反映する事が理解できて関係者の熱意が変わってきています。

3、指導者養成講座終了式と当NGOへの感謝状授与



5月31日、指導者養成講座の終了式が行われました。CIDよりミャンマークラフト支援会へ支援の感謝状贈呈受けました。

私の挨拶趣旨は下記の通りです。

- 1、縫製講座開設の目的は3つです。
 - 1) 先生の為です。縫製を知った時、織物の質が変わるはずですが、より奥深い知識を得た教師により良い教育が広がります。
 - 2) 職業選択の幅を広げます。織物と縫製、若い人の職業選択の機会を広げます。
 - 3) 日本とミャンマーの市民の交流です。2つの文化の協力によって新しい世界を作ります。そのキーワードは信頼です。
- 2、3つのステップで進めます。
 - 1) 指導者養成
 - 2) 日本、ミャンマー相互交流による縫製技術のレベル向上。そのための日本への招待計画も有ります。
 - 3) 縫製講座開始です。



講座終了者へはCIDから正式終了証書が発行されました。



終了式パーティ

お偉方招待者も帰った後
リラックスしての記念写真
皆さんドレスアップしています。



終了式記念写真

自作のブレザー(コート)を着用しての
記念写真

4、 今後の実施予定計画

ア 第2ステップ その1 課題を継続して自習してこなす事で縫製技術のレベルアップを計ります。

- * 現地でやる気が高まっています。日本からの情報を継続して伝えます。
- * 新しいデザインと共に、縫製に継続して接する機会を提供する事も必要です。
継続する事で技術が身につけてきます。
- * 能力に合わせた指導方法も工夫が必要です。

- 1) 日本から課題作を3回ほど送ります。
- 2) 現地では、6か所の学校へ別れましたので連絡が容易ではありません。
養成講座の成績から勤務校2か所に集中して資料を届けます。
タンジー分校とアマラプラー本校です。
- 3) 2週間ほどの制作で、課題作を日本へ送ってもらいます。
その評価を付けて、送り返ししながら、次の課題を送ります。
- 4) 寄贈ミシンも6台追加して18台を考えています。
この財源は、ミャンマー展での収益寄付とライン様からの寄付を当てます。

イ 第2ステップ その2 日本での交流

- * 2名を日本(新潟)へ招待して、直接交流します。

- 1) 時期は10月26日ー11月3日の10日間が第1候補にしました。
理由は秋のミャンマー展に合せた事と青陵短大での交流のしやすさ。
- 2) 招待者は成績第1位のKhin Win Kyi(タンジー校校長)とアシスタントで活躍した
Nandarの2名です。

ウ 第2ステップ その3 ミャンマー訪問して現地で交流

- * 本事業大きな目標、会員による現地での交流です。

- 1) 今回の訪問感触で、選挙は8月ー11月に実施されそうです。来年1月には国内が
すっかり落ち着いている事が予想されます。
- 2) 選挙前後1ヶ月は国内ピートアップしますので、様子を見ながら最終決定します。

エ 第3ステップ 縫製授業開始

先生の技術が上がったら、縫製授業開始できます。

但し、10名の先生均一ではないので、出来る条件のなかから順次開始する予定です。

具体的には本校とタウンジー校の2校が先行すると予想しています。

追加のミシン類の寄贈もその状況に合わせて実施していきます。

これらの件はCID幹部とも十分打ち合わせて慎重に進みます。

オ 現地訪問の報告会および現地への縫製課題提供打ち合わせ

現地から縫製した課題作品や試作品を持ち帰りました。

また、現地の生地質感も含め、打ち合わせを早急の実施計画しています。

F、縫製教室たより(2010年8月)

1) ミャンマー現地状況

サウンダー織物学校アマナプラ本校の校長が定年退職され、新任のDaw Tint Tintさんが赴任しました。それにとまって、アシスタント兼当方との連絡係もNandarさんからKaiさんへ交代しました。

- 2) 5-6月、アマラプラー本校、タウンジー校それとナンダーさんの3箇所にて課題1のブラウスを題材に素材研究を兼ねて、縫製の訓練を継続しています。ポイントは縫製の機会を出来るだけ得て、取得した技術を身につける事です。それにはこちらから常に課題(宿題)を出して、縫物を続けられる環境を作ることです。

- 3) ミャンマーから課題の制作品をEMS(国際小荷物)で送ってもらい、技術習得レベルをチェックしました。また、宇佐美先生より課題2と3の2点のブラウスを作っていただき、そのサンプル現物と型紙をEMSでミャンマーへ送りました。

現時点の技術レベルのチェックでは
アマナプラ本校 基礎技術未習得
タウンジー校 基礎技術合格
ナンダー 基礎技術習得中 でした。
その旨のコメントと具体的指摘ポイントを
現地へ伝えました。



写真は6月に青陵短大にて現地からの試作品とこちら側の課題作を検討中の1コマ

4) 現地からの招聘者

当初予定していたタウンジー校のキンさんが都合でこれなくなりました。

現在本校からHninさん(写真左)

アシスタントのナンダさん(写真右)の2名で調整中です。



F、9月期会報の報告内容

1、ミャンマーの状況

- 1、縫製教室、順調に継続しています。

ミシンは6か所の学校に分けられ、各学校で各自が継続して自習しています。

- 2、ただし、その中で教師の質から、とりあえず学校として学生を指導できるのは本校とタウンジーの2校と見ています。

- 3、ミシンもこの2校に多く配置して、対応出来るようにしました。

- 4、本校校長と下記の打ち合わせ

1)はやく教科書を仕上げて、CIDへ提出し、1部を当NGOへ

2)出来るところから、できる方法で、縫製教育を開始する

- 5、現地2名の招聘計画をまとめました。

10月29日(日本着30日) から 11月7日日本発です。

6、当方の現地訪問

- 12月23日成田発、12月29日(もしくは30日)成田着です。
- 12/23 新潟/成田/バンコック/ヤンゴン(夜着)
- 12/24-5 ヤンゴン/マンダレー 縫製教室、織物学校視察交流
- 12/26 綿畑視察後 マンダレー/ヤンゴン
- 12/27 バゴー視察
- 12/28 ヤンゴンにて各種工房、マーケット視察
- 12/29 帰国準備 ヤンゴン/バンコック
- 12/30 早朝 成田着

費用ひとり約20万円

備考 現地での買い物、クレジットカード、日本円は使えません。アメリカドルの現金だけです。訪問を予定の方、ドル安のタイミングでアメリカドル(できれば100ドル札)に両替準備をお早めに!

現在4名の参加者で実行予定です。

2、日本での状況

- 1、専門部会を既に3回開催して、技術支援を実施中
- 2、10月-11月の招聘時に各種交流を計画
 - 1)青陵大学との専門交流
 - 2)新潟地場工房との交流
 - 3)NGOメンバーがサポートしながら交流します。
- 3、12月の交流訪問を計画
 - 1)現地の理解を目的にした交流
現地は貧困ですが、それには訳があります。その理解から支援方法が検討出来ます。いきなり、日本と比較して「かわいそう」として行動すると良い結果は得られません。
 - 2)現地産業基盤の視察
手織、草木染工房と縫製教室さらにミャンマーのオートクチュール店も視察して交流します。一連の視察しにより繊維産業を理解しましょう。

3、来年度の検討

来年度のサウンダー会の縫製教育支援計画をもとに現地側と打ち合わせをしてきました。

検討を重ねて、新潟国際交流ふれあい基金へ支援応募予定です。

- 1、2011年5月、第2回指導者講習会を4週間実施して技術レベルを向上目標にします。
- 2、縫製教室開始、それに合せて設備(ミシン等)を増設します。
- 3、縫製教育の成果を日本で展示会開催して日本へのPRと現地の作業意識向上をはかります。そのさい、併せて担当者を日本へ招聘。これらの事業を通して、現地-日本側の意識高揚を図り最終目的の現地での自立のための具体的目標を模索します。

4、PR兼ねて展示会

A、新潟国際交流フェスティバル 参加



実施日 9月1日-12日(内バザールは9月4-5日)
以下、佐藤さんからの参加レポートの一部です。

- 9月4日(土) 販売 田辺和文、堀秀子、佐藤陽子
○8時設営開始。が、会議机2つと自分で持って行ったテーブルだけでは展示しきれないので、もう2台会議机を借りる。
○9時頃、参加者全体を集め事務局から説明がある。そのときそれぞれ簡単なNPO紹介。
○10時販売開始。
○1時頃昼食(事務局がカレーを用意してくれていたの、それを順番で食べに行く。これは美味しかった)
○4時片付け開始。全部車に撤収。
4日は思ったより暑くなかった事、観光の団体客それも年齢層の高い客が多かった事もあって、足を止めてもらえることが多かった

G, 11月、指導者を日本へ招聘し交流事業

1、招聘事業

ミャンマーからMs,NandarさんとMs,Hninさん 2人を招聘して中身の濃い交流事業を行いました。

2、 泉屋染物店様との交流

- 1) 新発田市にて藍染めを長く営んでいる泉屋染物店様は現在の山田真嗣様で3代目。
- 2) 日麴の草木染について情報交換しながら交流します。
- 3) 同時期に”全国お土産展”が新発田市で開催されていますので、山田様の案内で見学します。



写真は泉屋様の藍染め作品の説明を聞いているところ

3、 十日町織物組合様との交流

- 1) 伝統工芸指定の十日町絹織物の代表者渡邊織物様と綿貫織物様を窓口にして日麴の絹織物の情報を交換して交流しました。
- 2) 手織で独特の織方などでは両者共通の技法も有り、相互に有益な交流になりました。今後、交流を継続していくことになりました。
- 3) 十日町繊維試験所にて専門的なアドバイスもいただいて有意義な交流になりました。



資料館で貴重な作品を沢山説明受けました。



体験館では手織を披露。さすが慣れた手付き

- 4、 日緬文化交流会
 ミャンマーからの招待者と新潟でミャンマー支援をしている関係者と懇親会を行い楽しい時間を作りました。
 また、この際には新大へ留学しているミャンマーからの留学生も招待しました。



- 5、 新潟青陵短大様との交流
 1) 現在、縫製デザインをアドバイス
 いただいている宇佐美、今井先生
 への挨拶と情報交換
 2) 青陵短大見学



- 6、 東京都で開催のAMMC21総会時ミャンマー紹介コーナーを運営
 1) 11月6-9日東京都庁にてのアジア11都市の連絡協議会時にミャンマー大使館よりの依頼で
 ミャンマー(ヤンゴン市)の紹介コーナーを運営してきました。
 2) クラフト産業や有機栽培野菜、紅茶の紹介します。
 他の10カ国の方々とも親しく交流できる良い機会です。
 3) ミャンマーからの留学生など延べ9名の応援を得て
 楽しく紹介活動をしました。でも夜の8時までは長かった！



- 7、 新潟、東京にて専門店、デパート等、市場調査をして今後の方向性も検討しました。



11月7日、予定通りの研修を終了して成田より
 帰国しました。

同日、夜
 何のトラブルもなく、ヤンゴンに到着した事
 大変貴重で有意義な経験をさせていただき
 皆様には親切にいただいたことへの
 お礼のmailが届いていました。

H、現地訪問、交流事業 報告 2010年12月 1-2日目



2010年12月23日-30日、ミャンマー訪問して交流会を開いてきました。当初4名の予定が事情により斎藤夫婦2名の訪問となりました。斎藤理事にとっては6年ぶり3度目の訪問。マンダレー地区は初めての訪問でしたが楽しく、親しく交流・親睦ができました。

成田からバンコック経由で夜ヤンゴン着。翌朝、国内便でマンダレーに移動



マンダレー・サウンダー織物学校では、校長のMs.Thin Thin先生始め4名の先生が出迎えて頂き縫製教室創設のお礼と現状報告の後、来年の計画について相談しました。宇佐美先生より預かった、新しいエプロンスカートの見本と型紙を渡して、早速Ms.Ayeさんが試着



夜は、マンダレーで日本語学校をボランティアで運営されるこのたびの縫製教室のマスター講師Ms.Sentiaさんを紹介頂いた恵里奈様と居酒屋で飲んできました。

彼は8年現地に在住されて、現在マンダレー地区には日本人4名しか滞在してなく、商店には日本食はありません。かなりタフな環境なのです。そこでいつも醤油やダシをお土産にして喜ばれています。醤油があると現地食材で日本食が出来てしまいます。



3日目



車をチャーターして標高800-1200mのシャン高原へ移動。ここはミャンマーの軽井沢。有名な避暑地でイギリス植民地時代の瀟洒な別荘が残っています。途中、養蚕工場へ寄りました。丁度土曜日で工場休みでしたので、工場長官舎を訪ねて交流



朝6時にホテル出発、途中の食堂で朝食。
 この味が好きでいつもの定番、米麺を注文
 さらに1時間、目的の綿実験農場に到着。
 2年目の育種試験、左写真のように、従来の2倍の大きさまで育ち
 品種改良に目処がつけました。
 3年目の今年は左下の土地で本格的に綿栽培を試みる予定です。
 これらの試験は、マンダレー在住10年目の
 田中さんの協力によって実施出来ました。



日本から帰ったナンダさん
 12月中旬、女の子が生まれました。

母子ともに元気で
 皆様にお礼をとの
 伝言預かってきました。



4-5日目



ヤンゴンへ戻って、サウンダー・タウンジー分校校長の
 Khinさんや支援スタッフと打ち合わせ。
 綾織りで新しい生地を試作を打ち合わせ。



食事会
 手作りの料理をご馳走に
 なり、親しく懇親

6日目

古都で木工を視察



知人の木工工房で



木のスプーン作り体験



7ヶ国語を話す売り子、すごい！

ヤンゴンから北東へ80kmのバゴーはバゴー管区を中心都市で、バゴー王朝時代の古都。
 世界一の涅槃像など遺跡も多いです。一方森林地帯が近くのを木工産業も発達しました。

7-8日目



お礼に町で食材を買い求めて
日本食を作りました。

町の魚屋さんではほとんどが川魚、エビも淡水海老
でも、写真の大きなサワラを見つけて購入、
早速これで醤油味の煮魚にしたら好評でした。

ミャンマーで多くの関係者・市民の方と親しく交流出来
相互理解が深まった充実のミャンマー訪問でした。
また、来年度の計画も具体的に相談してきました。
縫製教室の指導者養成2次講座開催と一般教育開始を
今年目標とする事でまとまりました。
その為に相互交流を深くする事を確認しました。

夜行便で帰国。

成田から関越トンネルを超えたら雪でした。



添付資料 会計報告書
ミャンマー政府よりの縫製指導者養成講座開催への感謝状
同指導者養成講座用に作成したテキストブック

以上